

栃木県芳賀郡益子町益子方言の 比喩語について

早野 慎吾

はじめに

1. 調査対象地：栃木県芳賀郡益子町益子

位置：栃木県の東南部で東経140度05分47秒、北緯36度27分53秒の地点。

基幹産業：農業（米、葉たばこ、苺、とまと等）。

地場産業：益子焼き。

人口：24856人（男12340、女12510）

世帯数：6293戸（平成5年2月1日現在）

2. 調査年月日時：平成5年1月30日 午前10時00分～午後12時20分

3. 話者：木村マチ（女） 昭和5年9月13日生（満62歳） 他での居住経歴無し。

調査時において、木村満（昭和4年11月3日生、益子町益子出身）が同席した。

4. 調査者：早野慎吾

調査場所：話者宅

5. 調査方法：質問紙法による面接調査。

6. 記述法について：当方言は無アクセントであるため、アクセントの表記はしなかった。また比喩語と認められない語、もしくは比喩語でも共通語形と一致する語（音韻変化による訛語を含む）は括弧で囲んだ。音声記号は調査時の録音を聞き返し表記した（複数発音の場合は最初の発音を採用）。また回答例が無かった場合は（N.R.）と表記した。

I <自然現象>

- 1) 日照り雨 (フッカケアメ [ɸɸkkaɸeame] <名>)
- 2) 入道雲 (ニュードグモ [nju:do:ɸumo] <名>)
- 3) 旋風 (ツムジカゼ [tsümüɸi:kaze] <名>)
- 4) 霜柱 (オリギ [ori:gi] <名>)
- 5) 氷柱 アメンボー [amembo:] <名> 中～老年層使用。
① 飴のようになめるため。つまり飴の棒のこと。
② 雨が凍って固まったため。つまり雨の棒のこと。
- 6) 北斗七星 シャクゴサマ [ɸakugosama] <名> 中～老年層使用。頻度稀。
杓子の形をしているから。当方言は無敬語地域とされているが、このような自然物敬語は多く存在する。

- 7)すばる (N.R)
 8)流れ星 (N.R)
 9)風に舞う雪 カザハナ [kazahana] <名>中～老年層使用。頻度稀。
 風に舞う雪が花びらのように美しいため。

II <動物>

- 10)かわはぎ (カワハギ [kawahagi] <名>)
 11)ひらめ (ヒラメ [hirame] <名>)
 12)ひきがえる (オーガエル [o:gaeru] <名>)
 13)青大将 (蛇) (アオダイショウ [aodaišo:] <名>)
 14)とかけ (カナヒビ [kanaçibi] <名>)
 15)かまきり カマカッキリ [kamakakkiri] <名>中～老年層使用。頻度盛。
 16)みずすまし ジーカギムシ [dzi:kagimuçi] <名>中～老年層使用。頻度盛。
 文字を書いているように泳ぐため。
 17)きつつき (キツツギ [kizüzügi] <名>)
 18)せきれい (セキレー [sekiře:] <名>)
 19)ふくろう (フクロウ [fukuro:] <名>)
 20)鴨 アオクビ [aokubi] <名>中～老年層の猟師が使用。頻度稀。
 21)さなぎ ニシャードッチ [niça:dottçi] <名>若～老年層使用。頻度盛。
 摺むと西を指し示すといわれているため。「西はどっち」とさなぎ
 に問かけると西を指し示すという。

III <植物>

- 22)馬鈴薯 (ジャガタロイモ [džagataroimo] <名>)
 23)とうもろこし (トミギ [to:migi] <名>)
 24)いんげん豆 ドジョーインゲン [dožo:iŋgeŋ] <名>中～老年層使用。
 どじょうに似ているため。
 25)そら豆 (ソラマメ [soramame] <名>)
 26)木くらげ (キクラゲ [kikurage] <名>)
 27)げんのしょうこ (ゲンノショウコ [geŋnoço:ko] <名>)
 28)どくだみ ジゴクソバ [dzi:go kusoba] <名>老年層使用。
 お墓によく生えており、葉が蕎麦の葉に似ているため。
 29)いたどり (N.R)
 30)からすうり (カラスウリ [karasü:ri] <名>)
 31)すみれ (スマイレ [sumire] <名>)

- 32) 春蘭 シジババ [dʒiʒibaba] <名> 老年層使用。
- 33) 母子草 (ハハコグサ [hahaʔogusa] <名>)
- 34) わむの木 ネムリンボ [nemurimbo] <名> 中～老年層。
夜になると葉が眠ったようになるため。
- 35) 蚊屋吊草 アヤトリグサ [ajatorigusa] <名> 中～老年層使用。頻度稀。
茎があやとりをしているように見えるため。
- 36) くわがた オニムシ [onimuci] <名> 若～老年層使用。頻度盛。
くわがたの姿が鬼の顔に似ているため。
- 37) 車前草 カエルッパ [kaeruppa]、ゲーロッパ [ke:roppa] <名>
中～老年層使用。頻度盛。
葉の形が蛙の足に似ているため。
- 38) くろかわ (茸) ナベタケ [nabetake] <名> 中～老年層使用。
当方言では深い黒色を鍋色という。ナベタケとは鍋色の茸という意味。
- 39) 松かさ (松の実) マツダンゴ [mazudango] <名> 若～老年層使用。頻度盛。
- 40) 風鈴草 チョーチンバナ [tʃo:tʃimbana] <名> 中～老年層使用。
花がちょうちんに似ているため。
- 41) ぜんまい (大きくて硬いもの) オトコゼンマイ [otokozenmai] <名> 中～老年層使用。
オトコゼンマイは硬くて食べないが、オナンゼンマイは食べる。
- 42) ぜんまい (小さくて柔らかいもの) オンナゼンマイ [onnazenmai] <名> 中～老年層使用。

IV <性向>

- 43) 熱しやすく冷めやすい人 (N.R)
- 44) あわてん坊 (セーカチ [se:kaci] <名>)
- 45) 動作の鈍い人 (ノロマ [noroma] <名>)
- 46) 嘘つき (チクヌキ [tʃikunuki] <名>)
- 47) ほらふき (ホラフキ [horaʔuki] <名>)
- 48) おしゃべり (オシャベリ [oʃaberu] <名>)
- 49) 冗談をいう人 (ヒョーキんモノ [ʃo:kimmono] <名>)
- 50) 口先だけの人 (N.R)
- 51) とんちんかんなことをいう人 (デマカセイ [demakasei:] <名>)
- 52) のらりくらり煮えきらない人 (N.R)

- 53) 怒りっばい人 (オコリンボー [okorimbo:] <名>)
- 54) むら気な人 (オテンキヤ [oteŋkija] <名>)
- 55) 泣き虫 (ナギムシ [nagimuçi] <名>)
- 56) おてんば娘 (オドゴマサリ [odogomasari] <名>)
- 57) 腕白坊主 (イタズラガキ [iɰazūragaki] <名>)
- 58) でしゃばり (デシャッパリ [deçappari] <名>)
- 59) どこへでも顔をだす人 マグソダゲ [maɰu sodage] <名> 老年層使用。
マグソダゲとはどこにでも生えている茸のこと。
- 60) 家にこもって外出しない人 (モグリ [moguri] <名>)
- 61) 小心者 (ドキョーナシ [dokjo:naçi] <名>)
- 62) 内弁慶 ウチナカベンケー [uɰci naɰabeŋke:] <名>
若～老年層使用。
- 63) 人付き合いをしない人 (N.R)
- 64) 妻に対して頭の上がない人 (N.R)
- 65) けち カテー [kaɰe:] <形> 中～老年層使用。
財布の紐がかたいことから。
- 66) 欲張り (ヨグバリ [jogu bari] <名>)
- 67) 役に立たない人 アブラムシ [aburamuçi] <名> 中～老年層使用。
- 68) 同じ服をいつまでも着ている人 (キタッキリスズメ [kiɰakkirisüzüme] <名>)
- 69) ひねくれ者 ケヅマガリ [keɰumagari] <名、形動> 中～老年層使用。
- 70) 行ったまま帰ってこない人 テッポーダマ [teppo:dama] <名> 若～老年層使用。

V <食生活>

- 71) 大食漢 (オーメシグイ [o:meçiɰu:] <名>)
- 72) ぼたもち ハンゴロシ [hangoɱoçi] <名> 中～老年層使用。
炊いた米を完全に餅にするのではなく、米の粒を多少のこすため。
- 73) 砂糖味が薄い (甘さが足りない)
サトヤガトーイ ([saɰojagato:i]) 老年層使用。
砂糖屋が遠い。
- 74) 塩味が足りない ミズッパナミテーダ ([mizüppanamiɰe:da]) 老年層使用。
水のようにうすい鼻汁のようであること。
- 75) 大酒飲み (ウワバミ [uwabami] <名>)
- 76) 酒に酔ってくだをまく (N.R)

77) 酒に酔って顔が赤くなるさま

アガオニ [agaon+] <名> 中～老年層使用。

赤鬼のように顔が赤いこと。

キンタローカジマイ [kintaro:kazimimai]

老年層使用。

顔の赤い金太郎が火事現場にきて更に顔が赤くなる。

VI <動作・様態>

78) 恥ずかしくて顔が赤くなるさま

(カオガラヒーデル [kaogaraçi:dëru])

79) どしゃぶりの雨

(ブンマゲダヨーナアメ [bummageđajo:na:me])

80) びしょ濡れになるさま

(ズブヌレ [dzübunure] <名>)

81) 服装がだらしないさま

(ダラシネー [daraşine:] <形>)

82) 髭がのび放題なさま

(ブショツツラ [buşottsüra] <名>)

83) 厚化粧をしている人

オバケ [obake] <名> 若～老年層使用。

見るからに不気味なため。

ヤクシャ [jakuşa] <名> 中～老年層使用。

白塗りの役者のようであるため。

84) 背丈の高い人

カゼヨゲ [kazejoke] <名> 老年層使用。

風避けになりそうだから。

85) 出びたい

カサイラス [kasairazü] <名> 老年層使用。

額が傘の代わりになりそうだから。

86) 額からながれおちる汗

(タギノヨーナアセ [taginojo:na:se])

87) 目を丸くする

(メーマルクスル [me:marukusüru])

88) 口をとがらす

ツノグチ [tsünoğuçi] <名>

突き出した口が角のようだから。

89) 焦げ臭い (肉や魚等)

(コゲクセー [koğekuse:] <形>)

(紙や綿等)

(キナクセー [kinakuse:] <形>)

90) 遠廻り

(トーマワリスル [to:mawarisüru] <動>)

91) 末っ子

(バッチ [battçi] <名>)

92) 一生懸命頑張る

ハギシリカム [hağişirikamu] <動>

93) 見当違いをする

アサッテノホーヲミル [asattënoho::miru] <動>

明後日の方を見る。

94) 坊主頭

イガグリ [igagri] <名>

頭のようにすがいが栗に似ているため。

95) あざ

クロナジミ [kuɾonaʒimi] <名>

中～老年層使用。頻度盛。

ナジムとは「しみる」の意味。

96) 余り金をかすめる

シッポヲキル [ʃippo:kiru]

尻尾を切るの意味。

益子方言の比喩語について

国広(1982)は、比喩的転用を大きく二つのタイプに分類している。基本的意義素を構成する意義特徴のうち上位のものが入れ換えられる「基本的比喩」と、下位の周辺的な特徴を取り上げて、それに新しい意義特徴を付け加えてつくられる「周辺的比喩」である。

周辺的な転用は、二つの事物の共通の性質を認めることによって成立するが、本稿で取り上げた比喩語も周辺的な転用によるものがほとんどである。その共通の性質を大きく三つに分類すると次のようになる。

(姿・形によるもの)

1) 意義そのものの転用

アガオニ(赤鬼)→酔って赤くなった顔

イガグリ(いが栗)→坊主頭

2) 二語(以上)の複合によるもの

オニムシ(鬼の虫)→くわがた

マツダンゴ(松の団子)→松の実

(動き・機能によるもの)

1) 動きによるもの

ジーカギムシ(字を書く虫)→みずすまし

2) 機能によるもの

カサイラズ(傘がいらぬ)→出びたい

カゼヨケ(風よけ)→背の高い人

(性質によるもの)

マグソダケ(どこにでも生えている茸)→どこにでも顔を出す人

アブラムシ(ごきぶり)→役に立たぬ人

今回の調査結果では、姿・形の共通性による転用が多かったようである。

【参考文献】

国広哲弥(1982)『意味論の方法』大修館

森下喜一(1983)『栃木県方言辞典』桜楓社

(はやの しんご アルファ国際学院)